

第二章 「戦後日本労働者運動のあゆみ」の前半

司会 〓今日は、第二章「戦後日本労働運動のあゆみ」の前半、

1. 総評と左派社会党の結合 2. 三池闘争と総評『組織綱領草案』の項をレポートいただきます学習討論します。

〓さん 〓この章では、「総評」誕生から「連合」が生まれるところまで、労働運動の盛り上がるの部分や衰退していくその間の流れが書かれています。

1 総評と左派社会党の結合

戦後の民主化、労働組合の組織化

1945年8月15日、日本の無条件降伏は、戦争と強制労働、圧政と弾圧からの解放でした。アメリカ占領軍は民主化政策ということで、財閥の解体、農地の解放、軍国主義指導者の公職追放、女性参政权と労働組合の育成があり、以来日本の労働運動が急速に発展していきま

す。その発展のなかで、1946年8月には日本労働組合総同盟、全日本産業別労働組合会議が結成されます。そして同年11月3日に日本国憲法が公布されました。

総評結成と左派社会党

1950年7月、日本労働組合総評議会（以下、総評）が結成されます。労働者階級に対する資本の支配・介入を排除するたたかいを目的とし、それにより労

◆みんなの学習講座



総評結成大会（1950年7月）

働者が階級意識を身につける手がかりとなり、そして左派社会党が誕生することになります。

51年社会党第7回大会において、全面講和、中立堅持、軍事基地反対、さらに再軍備反対を盛り込んだ「平和四原則」の政治方針が決定されます。同年3月総評第2回大会では、「平和四原則」を支持し、国際自由労連二括加盟案を否決、9月にはサンフランシスコ講和条約

と日米安全保障条約に対し、左派は反対右派は賛成の態度で意見の対立が表面化しました。そして10月第8回臨時大会で左・右社会党へ分裂をします。総評労働運動は、左派社会党の政治路線と結合することによって、階級的労働組合に向けての飛躍を勝ち取り、これ以降「社会党・総評ブロック」は、戦後日本の平和運動、労働運動の中心的役割を担うことになります。

幹部闘争から大衆闘争へ

52年、総評の運動方針では、「職場運動は組合運動の基礎である。また職場における日常闘争の伸びは闘争の成功、運動の発展を支配する鍵である」として、職場組織と職場闘争を重要な柱にすえます。

一方、朝鮮戦争の特需により日本独占資本が復活し、55年日本生産性本部がつくられ、労資協調に立つ労働運動の育成に取り掛かりました。政治的には、左

右社会党の統一、保守合同による自由民主党の発足により、いわゆる55年体制がスタートすることになりました。

2 三池闘争と

総評『組織綱領草案』

御用組合のスタートから職場闘争へ

1946年2月3日、三池労組が結成されます。結成当初は典型的な御用組合でしたが、47年ごろから向坂教室の学習会が始まり、組織づくりと職場労働条件改善へ向けた労働者運動の積み上げが始まります。職場分会、地域分会、主婦会をつくり、52〜54年の「英雄なき13日のたたかい」で1825名の指名解雇を撤回させ、311名の職場復帰を勝ち取りました。ちょうどこの頃はエネルギー政策の転換として、石炭から石油への転換が行われている時期でした。総評はこの三池労組のたたかいと、その基

盤にある職場闘争を模範として、58年『組織綱領草案』をつくり、全組織へ下ろし組織強化を具体化しました。

三池闘争、安保闘争の結合

資本家陣営は、三池労組を社会変革の脅威ととらえ、攻撃していくことになりました。59年、三井資本は三池労働者に対し1214名の指名解雇を通告しました。これに対し三池労組は、313日間のストライキを実行し、このたたかいから全国各地に、「守る会」「まなぶ会」など自発的組織がつけられることになりました。結果、首切りを撤回できなかつたという点で敗北しましたが、60年安保反対闘争は「総資本対総労働」の対決が、政治運動と労働運動において同時に展開され、国民的な大闘争として、その後の階級闘争に大きな影響を与えました。三池労組はその敗北から総括し、たたかいは続くとして「長期抵抗・統一路線」を提起し、日本労働運動総体の進むべき道

を示したのです。

『組織綱領草案』の廃棄

政策転換闘争へ

しかし、三池闘争後、61年総評指導部は、三池闘争を「敗北」と断じて『草案』を廃棄しました。炭労闘争を收拾するために提起された「政策転換闘争」は、職場闘争を放棄したうえで対政府陳情運動へと流されていきます。この「政策転換闘争」は労資協調、右翼的労働戦線統一、改良主義への流れを加速させます。その背景には日本独占資本の復活、日本帝国主義の復活、高度成長期という経済的基盤がありました。この機をとらえ、独占資本は職場に能力主義管理を導入し、労働運動を内部から腐食させ、職場支配を強めていったのです。

司会Ⅱ戦後から今日までの運動はどうだったのか、レポートをいただきました。

まず、最初の総評と左派社会党の結合というところで、戦後の民主化、労働組

合の組織化でアメリカの目的というのは何だったのかということ、対共産主義というところもあったといいますが。

IさんⅡ途中からアメリカの方針が変わったのでしよう。最初は民主化政策であったものが、50年の朝鮮戦争をきっかけに対共産主義方針に変更していきました。

MaさんⅡ連合軍の態度が最初は民主化であったために、労働組合の組織化をやっていたが、次第に社会主義圏の拡がりのなかで、対共産主義に質的に変更せざるを得なかつた。

司会Ⅱ次に、いよいよ総評が結成されることになりましたが、組合民主主義の自立から出発し、民主主義を学ぶということから始まったのです。この、総評と左派社会党との政治路線の結合によって、階級的労働組合運動に向けて、飛躍を勝ち取るのです。私たち若い世代は、労働組合に加入した時には既に「連合」でしたので知らない世代になります。

SさんⅡ「昔軍隊、今総評」という言葉

◆みんなの学習講座



国労運動つぶしを狙った謀略、三鷹事件

がありました。昔の青年は軍隊によって組織というものを教えられました。今は、総評労働運動により青年労働者は鍛えられ、組織運動を理解して人間の成長を勝ち取っているという意味で総評を称える言葉です。

山川均さんが、『社会主義への道』のなかで、「労働組合運動は社会主義の学校である」と書いています。労働組合運動を通じて組織的運動を理解し、労働者

として、人間としての生き方を学び、社会主義へ向かうという位置づけです。しかし、今では労働運動で鍛えられるという経験が、ほとんどのないのが現状になっています。

○さん 坂牛哲郎労働大学学長がこの頃1950年8月26日にレンド。ページさされていますね。

Iさん ちようどアメリカの方針が変わった頃ですね。朝鮮戦争が勃発するなどの関係で、民主化政策を進めてきた方針から一転、アメリカの中国や朝鮮に対しての防波堤の役割を日本に担わせる方針に変えることとなったのです。

なぜ、成果主義賃金制度への転換を許したのか、を歴史に学ぶ

Sさん Ⅱそれと並行してやられたのが、労働組合への徹底した弾圧です。国鉄の下山・三鷹事件など、共産党員の陰謀により世の中を転覆させようとしている等と、でつちあげ事件を起こすことで共産

党をつぶしにかりました。戦後活発だった国鉄労働組合運動を叩く意図でした。

Ynさん Ⅱこの2章の位置づけは、「戦後日本労働者運動のあゆみ」とはありますが、その内容を詳しく説明をしていくことが本題ではない。前に戻るが第一章の16ページの4行目にある、労働組合の弱体化のために、終身雇用制度を維持しつつも能力主義賃金制度へ移行、さらに95年からは成果主義賃金制度への転換を許した、ということ、この章ではどのように弱体化されてきたか、のポイントを押さえることが重要だと思います。司会 Ⅱここでは、労働組合が単に弱くなったということではなく、支配者側の動きもしっかりと把握した上で、なぜそうなったのかという原因を明らかにしながら、現状をつかんでいきたいと思えます。総評の運動方針というのは、「職場における日常闘争」を柱に据えたものでした。職場の仲間の意見を聞いて、労働組合に持ち寄るといのもそうですし、職場の中で共にたたかう仲間を見つけていくと

いう組織づくりも職場闘争と言えると思
います。

Sさん II 右寄りの組合でも、組合活動と
いうのはそれなりにあるのでしょうか、
そもそも労働運動は何のためにするのか
という問題意識が問われているのだと思
います。

司会 II 階級的な視点があるかないか、と
いうことですか。

Sさん II 職場こそが矛盾が出てきている
場所であるから、そこで労働者が組織的
に抵抗したり、怒りをぶついたりするこ
とが基本であるということ。資本に
とつては、それが一番まずいことなので、
生産阻害者のレッテルを貼り、つぶしに
かかったということ。職場での問題
意識を持った者を排除する、という流れ
があったのです。三池闘争では、一つの
頂点であつたのかもしれないが、た
たかう方針をつぶしにかかったという資本
側の攻撃でした。

Mさん II ここまで職場闘争をやつてきた
のに負けたということ、資本側の攻撃

にまんまと乗つた形で、労働者側が自ら
意見対立をし、たたかう方針を転換して
しまい、2つに分かれてしまいました。

司会 II 資本側が、モノを言う労働組合組
織がじゃまになってきたというのが背景
としてあり、それを単に排除するだけ
なく、同時に労働者を取り込んでいった
ということが大きかったと思います。

Iさん II 日本の特徴である、企業別労働
組合という組織体系も、そこで大きな要
因になりますね。母体が単一企業である
ことから、労働者を取り込みやすいこ
ろがあります。

改良闘争の重要性

司会 II 結果、三池闘争を敗北と断じて総
評は、『組織綱領草案』を廃棄します。
その後は、陳情によつて物事を解決して
いこうとする労資協調、改良主義とい
う方向に進んでいきます。

Oさん II 改良主義というのは、あくまで
資本主義社会の枠組みのなかでツギハギ

的に労働者の職場・生活を良くしていく
という運動ですね。

Ynさん II 改良闘争というものも必要で
全てを否定するわけではありません。賃
金や労働条件など、労働者の現状を良く
していくことは必要なことですが、それ
を積み重ねていったところで、物事の本
質、つまり社会は変わらないということ
です。

あくまで改良闘争は、繰り返すそのた
たかいを積み上げていくことで、物事の
本質や敵は誰なのかを明らかにすること
ができます。この改良闘争にとどまらず、
社会を変えるたたかいに転化できるかが
重要なのです。しかし、今の労働組合は
この改良主義すらしていないのが現状で
す。資本にとつてネットワークだったのは、総
評は資本とは別の自立した労働組合であ
つたということです。労資協調ではなく
あくまで自立したものであり、そのため
には労働者一人ひとりがそういう意識
を持つことが必要でした。資本があつて
労働者がいるのではなく、労働者がすべ

◆みんなの学習講座



三池闘争支援の社会党国会議員団と故浅沼社会党委員長
(1960年5月11日)

ての生産を担っている社会なのだ、という自覚です。それを養うために職場闘争が必要不可欠だったのです。そして、その職場闘争が大衆路線でなくてはならない。その自覚を持たせるための大衆学習運動です。ただ多く人が集まることではなく、一人ひとりの組合員が自覚をしていく、その結果によるたたかいが大衆闘争なのです。

Sさん 有能な指導部がいて、請負で進

める運動は一定程度成功するかもしれないが、発展はしません。私が19歳の時、三池労組結成20周年記念集会に参加して感動し、自分の生き方に影響を与えてくれたのは、「労働者として生きることに誇りをもっている」という、三池労働者の言葉です。職場を支えているのは、額に汗して働く労働者であり、社会の主人公であるという労働者の生き様です。労働者意識、権利意識は、日常的な職場闘争と、学習運動による相互討論のなかから身についたものです。

Oさん 職場闘争の放棄というところで、高度経済成長期という経済的理由の背景があったということです。実際のところ三池闘争の敗北が改良主義という、一種楽な闘争にシフトさせる要因になったのかな、と思うのですが。

Yさん これは結局、三池や炭鉱労働者だけが、いくらたたかっても解決できない問題であるということです。資本は、このたたかいを全体に拡げられることがまずいということから総資本でつぶしに

かかってきたのです。三池はすごく頑張ったのですが、いかんせん単一闘争で、日本全体でのたたかいまでには拡げられなかった。こちらにも総労働でたたかうことができないと、勝つのは難しい。本来の原因はそこにあるのですが、総評では職場闘争を否定してしまつたのです。

Sさん そこでたたかた労働者ではなく、総評の幹部がそう判断したのです。労働者は職場闘争には手ごたえがあり、その拡大の不十分さに敗因を感じていました。国労のたたかいも同じです。

Mさん 歴史を見ていくときに、個々の事象の流れを単に見るだけでなく、資本側、労働者側双方からその背景を立体的に見ていくと、よくその歴史の流れが理解できますね。

司会 資本側の方が労働者よりも、階級的な危機意識が強い訳ですね。労働者側のたたかいの拡大を恐れ、いち早く職場闘争を、資本側がつぶしにかかったという事です。

次回は、第二章の後半を学習します。